

## 平成23年度第4回宮城大学食産業学部 教授会（定例）議事録

開催場所	管理棟 大会議室	開催日時	平成23年7月13日（水）13:30～14:30
出席者	<p>49名／定数53名 （ファームビジネス学科） 中村（正）教授、本蔵教授、小黒教授、齋藤（満）教授、大竹教授、松森教授、小林（仁）教授、井上教授、木村教授、森本教授、岩浪准教授、岩井准教授、中村（聡）准教授、須田准教授、川島准教授、紺屋講師、齋藤（秀）助教 （フードビジネス学科） 大久教授、池戸教授、石田教授、川村教授、西川教授、三石教授、下山田教授、鶴岡教授、堀田准教授、老川准教授、森田准教授、菰田准教授、金内准教授、石川准教授、白川准教授、河西准教授、谷口助教、君塚助教、木下助教、 （環境システム学科） 矢野教授、加藤教授、森山教授、佐藤教授、原田（茂）准教授、笠原准教授、神宮宇准教授、今野准教授、千葉講師、伊吹講師、高橋（信）助教、折笠助教 〔欠席〕 フード 津志田教授、都准教授、環境 北辻教授、原田（鉦）准教授</p> <hr/> <p>（事務局）佐藤参事兼総務学務課長、後藤課長補佐、首藤課長補佐、深町主事</p>		
	<b>議 事 内 容</b>		
審議事項	<p>議事録署名人に学部長、（環境）伊吹 竜太講師を指名した。</p> <p>（1）第2回、第3回議事録の確認について 第2回、第3回食産業学部教授会議事録について、メールで送信済みであり、原案のとおり承認された。</p> <p>（2）キャリア対策について キャリア開発室長より、資料1に基づいて、4年生の就職活動状況の現状について説明が行われ、今後の対策について話し合われた。 キャリア開発室の利用者は増加しているが、内定率は、昨年同期に比べ低くなっており、県内への就職希望者が多い中、県内の募集が減少していることが要因の一つと考えられると説明がなされた。県内の企業の採用について、今後の見通しについて質疑が行われ、県内の企業も動き出してきており、キャリア開発室において、インターンシップ先の企業の情報等もまとめてはいるが、学生に対しては、県内の企業の動向をただ待つのではなく、県外にも目を向けて出来ることはしていくよう指導していく必要があることが話し合われた。 各教員に対して、ゼミの学生については、キャリア開発室の利用状況を確認し、キャリア開発室の来室がない学生に対しては、利用について指導してもらいたいと協力依頼がなされた。 また、「就職活動状況調査票」について説明が行われ、担当するゼミの学生と面談を行い、「就職活動状況調査票」に記入の上、7月22日（金）まで、キャリア開発室の専用ポストに提出してもらうよう協力依頼がなされた。</p>		
報告事項	<p>（1）第1回編入学試験について 入試委員長より、資料2に基づいて、7月2日に行われた第1回編入学試験実施結果について、報告された。ファームビジネス学科6名、フードビジネス学科4名、環境システム学科0名の計10名の出願者数に対して、ファームビジネス学科3名、フードビジネス学科2名の合格の報告がなされた。</p>		

(2) アカデミック・インターンシップについて

入試委員長より、資料3に基づいて、宮城県向山高等学校より申し出のあるアカデミック・インターンシップの受け入れについて説明がなされた。向山高等学校より、高校2年生の学生対象の大学を舞台としたインターンシップの受け入れの申し出があり、運営会議において大学として受け入れることが決定されたことが報告された。アカデミック・インターンシップの実施期間は、8月8日～10日の3日間であり、学科長を中心に受け入れ時の内容を検討していることが説明され、各教員にも協力の依頼がなされた。また、アカデミック・インターンシップに参加する学生に対して、持ち物や、服装など指示することがあれば、7月20日までに総務学務課まで連絡を頂くこととされた。

(3) 全学委員会報告

●施設有効活用検討委員会

資料4に基づいて、森山教授より報告がなされた。施設の有効活用のために、学内の施設の利用率及び利用実態の調査を大和キャンパス中心に行うことが説明された。また、太白キャンパスでの実施については、時期は未定であるが、大和キャンパスと同じ項目で坪沼農場及び管理棟が今後調査の対象となることが説明された。

●国際センター報告

別添資料に基づいて、国際センター長より報告がなされた。オーストラリア大使館では、被災した東北のエリアの研究者・大学生に対して、最大100名の支援金の準備を進めており、宮城大学としても応募の準備を進めていることが説明された。また、イギリス大使館・カナダ政府からも、被災地への支援が発表されており、フルサポートの留学プログラムの公募が行われる予定があり、留学を希望する学生がいれば、国際センター長まで連絡を頂きたいと依頼がなされた。ロイヤルメルボルン工科大学との第4回合同シンポジウムについては、12月1日、2日近辺で予定をしていること、タンペレ応用化学大学学部留学について、全学で7名中4名は食産業学部より派遣する予定であることが説明された。また、アーカンソー大学フォートスミス校フルサポートでの半年間の留学プログラム支援については、本学より事業構想学部の学生2名が通ったことが報告された。

●総合情報センター

報告なし。

(4) 学部委員会報告

●学生委員会

学生委員長より、資料6に基づいて、授業料減免審査について、通常枠での申請28名のうち、今回審査対象者9名中、全額減免対象者1名、半額減免対象者3名、減免非対象者5名であったこと、及び震災枠での申請41名のうち、今回審査対象者19名中、全額減免対象者17名、半額減免対象者2名、減免非対象者0名であったことが報告された。また、節電対策について協力依頼がなされた。

●研究紀要委員会

研究紀要委員長より、資料7に基づいて、報告がなされた。科研費申請のための勉強会を9月14日定例教授会終了後に開催予定であることが説明された。また、食産業学部紀要について、今年度の発行は行わないことが決定されたため、研究業績については、各教員で学会誌へ投稿を行うよう説明がなされた。若手研究B、挑戦的萌芽研究、基礎研究Cについて、今年度より採択分から予算の使い方について制度変更が行われているため、詳細については、日本学術振興会のホームページを確認するよう説明がなされた。

<p>その他</p>	<p>●教務委員会報告  教務委員長より、資料8に基づいて、平成23年度前期最終講義・試験・成績関係スケジュールについて、説明が行われた。</p> <p>●実験安全・管理委員会  実験安全・管理委員長より、資料9に基づいて、報告が行われた。高圧ガスの管理について、現在、太白キャンパスでの高圧ガスの保有数は290m<sup>3</sup>程度あり、保有数が300m<sup>3</sup>以上になると消防署への届出等の手続きが必要となるため、集約できるものは集約し、300m<sup>3</sup>を超えないよう協力依頼がなされた。可燃性ガスの保管状況について、震災後の設置状況の確認のため、各学科の委員が調査を行うため、管理者の先生方には協力頂きたいと説明がなされた。また、節電・節水についての協力依頼もなされた。実験室の機器・器具の管理について、紛失が見受けられるため、対策として、学生実験室の利用については、管理責任者への使用の届出の徹底、及び、学生だけで利用することがないように指導してもらいたいと依頼がなされた。また、化学実験室2については、試行的に機器・器具の持出、持込を禁止することが説明された。</p> <p>●広報委員会  広報委員長より、7月31日に開催されるオープンキャンパスについて、教員への協力依頼がなされた。</p> <p>●農場運営委員会  報告なし。</p> <p>●図書情報委員会  報告なし。</p> <p>(1) 平成27年度センター入試について  資料12に基づいて、入試委員長より、平成21年度告示高等学校学習指導要領に対応した大学入試センター試験の数学・理科の出題科目等の変更について、説明が行われた。</p> <p style="text-align: right;">録署名人</p> <p style="text-align: right;"> <u>池戸 重信</u> 印  <u>伊吹 竜太</u> 印 </p>
------------	---